

2026年3月31日
DealWatch 編集部

LSEG DealWatch、2025年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門の発行体に「日本製鉄」

引受ハウスに「野村證券」を選定

LSEG（ロンドン証券取引所グループ）の「DealWatch」は、2025年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオファリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2025（ディールウォッチ・アワード 2025）」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的として1995年に創設されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」との観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献、さらには創意工夫などを総合的に勘案して選定されています。

2025年度のDEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「クロスボーダー債」「サステナブル・ファイナンス」「株式」の計6部門で構成されています。総合部門では発行体に「日本製鉄」、引受ハウスには「野村證券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DealWatch Awards 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2025年度のDEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

LSEG について

LSEG (ロンドン証券取引所グループ)は、世界をリードする金融市場インフラおよびデータプロバイダーであり、グローバル金融システムにおいて社会的・経済的に重要な役割を担っています。オープンなアプローチで、信頼性の高い専門知識をベースにグローバル展開することで、お客様とそのコミュニティの持続的な成長と安定を実現しています。当社は、データとアナリティクス、インデックス、資本調達、複数アセット・クラスにわたるトレーディングの執行、クリアリングとリスクマネジメントの分野において豊富な経験や幅広い知識と共に専門性の高いパートナー企業として世界中で事業を展開しています。LSEG の本社所在地は英国で、欧州・中近東・アフリカ、北米、アジア太平洋地域の 70 カ国で事業を展開しています。世界中で 23,000 人の従業員を雇用し、その半数以上がアジア太平洋地域で業務遂行しています。LSEG の証券コードは LSEG です。

LSEG データ&アナリティクスについて

金融市場のデータとインフラの提供で世界をリードする LSEG データ&アナリティクス部門は、約 190 カ国の 4 万社以上の企業と 40 万人以上のユーザーを顧客基盤とし、世界の金融コミュニティに欠かせないパートナーとして、金融サービス業界におけるデータの未来を再定義しています。データ、フィード、アナリティクス、AI、ワークフロー・ソリューションを通じてお客様が重要なインサイトを導き出す手助けをしています。また、当社独自のインサイトをお客様のワークフローにシームレスに統合することで、お客様がビジネス機会を特定し、競争優位性を高めるための支援をしています。

以上

DealWatch に関する問い合わせ先:

DealWatch 編集部 アワード事務局: dwa@lseg.com

DEALWATCH AWARDS 2025 受賞一覧**総合部門****<Issuer of the Year>****日本製鉄**

US スチール買収費用のパーマネント化が市場から注目を集めるなか、本邦企業 CB として過去最大となる 6000 億円を調達。投資家との丁寧な対話、精緻な作りこみにより金利上昇局面における資本・資金調達の選択肢を広げた。

<House of the Year>**野村證券**

市場構造の変化が進むなか、資本効率の向上と収益基盤の拡充、市場変動の大きい環境下での円滑な調達を支援した。発行体の経営戦略に応じた調達方針を示し、盤石な体制で案件を完遂。市場の新たな可能性も拓いた。

社債部門**<Bond Issuer of the Year>****SBI ホールディングス**

既発社債の買入れと新規社債の発行を同時に行い、償還ラダーを平準化する国内初のスキームを導入して調達を実現。リテール向けセキュリティトークン債では流動性の課題を解消するなど革新的な手法に取り組んだ。

<Bond House of the Year>**みずほ証券**

起債難易度が高い案件に主幹事として多数関与して手腕を発揮。市場の変動性が高いなかで環境に応じた商品を提案して発行体・投資家双方のニーズに応えるとともに入念かつ柔軟な案件運営で市場の発展に貢献した。

<Bond of the Year>**第 1 回日本航空債 (1500 億円、永久 NC5、劣後債)**

大和証券／野村證券／BofA 証券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券

第 2 回日本航空債 (289 億円、永久 NC10、劣後債)

BofA 証券／大和証券／野村證券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券

米追加関税策の影響により金利の振れ幅が大きく、シニア債でも起債見送りや発行額が当初予定に満たない案件が相次いだ年度当初に、難易度の高い永久劣後債を起債。投資家目線に沿う適正な水準を探し当て旺盛な需要を獲得した。

<Debut Debt Deal of the Year>

第1回 GENDA 債(33 億円、3 年)

SMBC 日興証券／みずほ証券

ゲームセンター運営という社債発行市場では珍しい業種で、市場での銘柄や業種の裾野を拡大。非上場化などによる BB+ 以下への格下げを前提とする「ダブルトリガー」により早期償還が可能な新たなコベナントを構築して投資家に配慮した。

<Innovative Debt Deal of the Year>

第1回住宅金融支援機構債(200 億円、最終 35 年、グリーンボンド)

野村証券／SMBC 日興証券／みずほ証券

RMBS で一般的な超過担保を設定しない仕組みを取り入れた。効率的な資産管理の仕組みに取り組みつつ、月次債に格付の違いを反映させたプレミアムを付加したプライシングで新たな投資家を呼び込んだ。

地方債部門

<Local Government Bond House of the Year>

SMBC 日興証券

セカンダリーの需給悪化とトランプ関税により投資家の警戒感が高まる 4 月に基幹年限の 10 年債での第一弾となる主幹事方式の全銘柄で事務主幹事としてスプレッドの調整に着手。その後のワイド化の流れの先鞭を付けた。

<Local Government Bond of the Year>

秋田県令和 7 年度第 1 回公募公債(92 億円、最終 20 年、定時償還)

野村証券／SMBC 日興証券／みずほ証券

国債金利の振れ幅の大きさなどを背景に、20 年定時償還債への需要が減退する厳しい環境でもフェアバリューを追求。適正な水準を再構築したことで、後続銘柄が追随するなど新たな起点となる重要な役割を果たした。

クロスボーダー債部門

<Cross-border Bond House of the Year>

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／モルガン・スタンレー MUFG 証券

金利変動の大きさから起債難易度が高まった本年度の国内債市場。国内発行体に長期ゾーンかつ大規模な資金調達が可能で外債市場の積極的な活用を推進。名だたる企業に調達手段の選択肢を広げ、海外投資家に日本ネームを提供した。

<Offshore Bond of the Year>

NTT ファイナンスドル債(12 億 5000 万ドル, 2 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(15 億ドル, 3 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(25 億ドル, 5 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(25 億ドル, 7 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(25 億ドル, 10 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(5 億ドル, 3 年, 変動利付)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスドル債(5 億ドル, 5 年, 変動利付)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスユーロ債(15 億ユーロ, 2 年, 変動利付)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /
BofA セキュリティーズ / ゴールドマン・サックス・インターナショナル / BNP パリバ・セキュリティーズ /
バークレイズ・キャピタル / 野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスユーロ債(10 億ユーロ, 3 年 8 カ月)

モルガン・スタンレー・インターナショナル / JP モルガン・セキュリティーズ / シティグループ・グローバル・マーケットツ /

BofA セキュリティーズ／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／BNP パリバ・セキュリティーズ／
バークレイズ・キャピタル／野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスユーロ債(15 億ユーロ、8 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル／JP モルガン・セキュリティーズ／シティグループ・グローバル・マーケットツ／
BofA セキュリティーズ／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／BNP パリバ・セキュリティーズ／
バークレイズ・キャピタル／野村セキュリティーズ・インターナショナル

NTT ファイナンスユーロ債(15 億ユーロ、12 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル／JP モルガン・セキュリティーズ／シティグループ・グローバル・マーケットツ／
BofA セキュリティーズ／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／BNP パリバ・セキュリティーズ／
バークレイズ・キャピタル／野村セキュリティーズ・インターナショナル

アジアの民間企業として過去最大の総額 2 兆 6000 億円相当を起債。グローバル投資家の全参加型案件となり、本邦企業の国際的プレゼンスを大きく高めた。事業戦略にも選択肢を増やしうる巨額ファイナンスのモデルを示した。

<Cross-border Yen Bond of the Year>

第 27 回ルノー債 (952 億円、3 年)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券

3 年ぶりにサムライ債市場へ復帰。同社を取り巻く環境が大きく変わるなかでも同社の伝統的な投資家層である年金勢の需要を最大限に獲得した。1 トランシェでは本年度 2 番目の発行額を達成。日本での信用力の高さを示した。

サステナブル・ファイナンス部門

<Sustainable Finance Issuer of the Year>

伊藤忠商事

女性活躍支援を用途とした国内初のオレンジボンドを起債。途上国での発行が主だった同債を日本の事業会社でも活用できる道を示し、女性役員約 3 割や不妊治療支援など一貫した実行姿勢で投資家の信頼を集めた。

<Sustainable Finance House of the Year>

大和証券

着眼力と提案力で社会の持続的な発展へ確固たる意志を持つ発行体を支援し、国内の社会貢献債発行が減少するなか光明となる案件を複数創出。案件のサイズアップや投資家からの超過需要でラベル債の意義を明確に示した。

株式部門**<Equity Issuer of the Year>****テクセンドフォトマスク**

需要拡大が続く半導体のフォトマスク分野で、世界トップシェアと高い収益性を誇る。IPO では S-1 方式を採用したほか、巨額の親引けを呼び水に新たな投資表明を獲得して案件規模を拡大。世界に勝負できる銘柄として高く評価された。

<Equity House of the Year>**野村證券**

本年度を代表する大型案件を円滑に執行する強固な販売力とプライシング力を発揮した。難易度の高い案件を次々執行。市場環境に応じた柔軟な商品設計により発行体・投資家双方のニーズに応じて株式資本市場をリードした。

<Equity Deal of the Year>**ispace**

[払込日 10/21] SBI 証券

上場後の赤字企業によるリテールを含む公募増資の成功例が乏しいなか、宇宙産業への期待を背景に成長資金を果敢に調達。事業シナジーのある企業への第三者割当を並行して行うなど工夫も光り、株価も底堅く推移した。

<IPO of the Year>**SBI 新生銀行**

[払込日 12/16] 野村證券／SBI 証券／みずほ証券／ゴールドマン・サックス証券／

SMBC 日興証券／BofA 証券

23 年の上場廃止から公的資金返済を経て異例の早さで再上場を果たした。SBI ホールディングス傘下後の急成長、次世代金融銘柄としての魅力を訴求しきり、総額 3701 億円の巨額 IPO を完遂。上場後株価も堅調だった。

<Equity-linked Product of the Year>**日産自動車 2031 年満期ユーロ円 CB (2000 億円, 6 年)**

みずほインターナショナル／メリルリンチ・インターナショナル／モルガン・スタンレー・インターナショナル／

シティグループ・グローバル・マーケット／SMBC バンクインターナショナル

本邦企業初となる外債と CB の同時発行で海外市場を積極活用。外債と合わせる形でマーケティング期間を設定するなど入念に起債運営を執行した結果、500 億円の増額にも成功。大型ファイナンスの成功例を作った。

<J-REIT Deal of the Year>

日本プライムリアルティ投資法人

[払込日 12/9] みずほ証券／SMBC 日興証券

割安増資にネガティブに反応しやすい投資家意向に細心の注意を払い、スポンサー力を発揮したプライム物件の持分取得を含む好条件の増資を敢行。多くのロング投資家を引き寄せ、J-REIT への信頼感を高めた。

<Innovative Equity Deal of the Year>

PayPay

[払込日 3/13] ゴールドマン・サックス／JP モルガン証券／米国みずほ証券／モルガン・スタンレー

日本企業として初めて米 NASDAQ 最上位市場への単独上場を実現。イラン情勢の緊迫化など逆風下であったが、強固な長期保有目的の需要を確保した。POWL を通じて、日米双方の投資家に対し門戸を開いた点も革新的だった。

以上